

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801450		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミライフ・東住吉(2階)		
所在地	大阪市東住吉区住道矢田6丁目2-24		
自己評価作成日	平成28年11月18日	評価結果市町村受理日	平成29年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2770801450-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所開設から12年目に入り、開設当初からお元気で入所されている方も居られます。利用者一人一人に合った個別ケアを重視しており集団生活の場ですが個人の思いも大切にしております。施設全体としましては平均介護度が高くなってきていますが、利用者様の今できていることなどを維持・向上していくお手伝いをさせて頂いています。地域の行事にも参加させて頂き馴染みの関係性を築き地域の輪に入り利用者様との交流もさせて頂いています。また、施設内での季節事の行事や外出など季節感を感じて頂ける様職員一同努力しております。母体が医療法人なので医療との連携もスムーズに行えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、「人と人のお付き合い」を事業所の理念としてリビングに掲示して職員は常に意識しながら、利用者の笑顔が見られよう支援に取り組むと共にその方らしい生活が出来る様に日々関わっています。地域の夏祭りや盆踊り等の行事に参加したり、近隣の方が気軽に事業所の見学や介護の相談に来るなどグループホームや認知症の理解を深めながら地域との良好な関係性の構築に努めています。また職員はチームワークが良く明るく優しい声かけを心がけて人としての尊厳を大切に寄り添いながら支援し、利用者のやりたいことや馴染みの関係が維持できるように努めています。家族との良好な関係の構築に向け日々暮らしや表情を写真に残し1年間の写真を纏め個々にアルバムを作成し、家族へ送り利用者の普段の様子を知ってもらえるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔・信愛・憩いを法人理念とし、人と人のお付き合いを事業所の理念としています。職員間で常に共有できるようフロアに掲げています。	事業所開設後に独自の理念を作成し、リビングに掲示し、朝の申し送り時に唱和をして意識するようにしています。新人研修では法人と事業所の理念を説明し、利用者と地域との付き合いを大切にすることを謳った理念に込められた思いを共有し日々実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にも参加させて頂き、夏祭りや盆踊り、敬老会や餅つきなど交流を深めています。	町内会に加入し回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得て夏祭りや盆踊り、敬老会等に利用者と共に参加しています。運営推進会議を通じて地域の方の見学を受け入れ事業所や認知症の理解を図ったり、大学から介護実習生の受け入もしています。事業所での敬老会には南京玉すだれのボランティアの来訪もあり、地域の方との相互交流を少しずつ深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去には施設にて地域の方との食事会を開催し施設内での雰囲気や食事風景などを見て頂いたことがあります。認知症の方に対する支援などを見て頂ける場を作りたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催しています。事業所の活動報告や地域の情報や意見交換の場になっています。	会議は家族代表や町会長、女性部長や社会福祉協議会評議員、地域包括支援センター職員等の参加を得て法人で同じ地域のグループホームと合同で2か月に1回開催され、活動状況や行事、事故等の報告後、行政からの通達や注意喚起も含め話し合ったり、地域情報を得てイベントなどにも参加しています。会議を通じて地域の方の見学を受け入れる等、グループホームへの理解を図ると共に、地域の方との交流の場としています。	会議で検討した内容や取り組みを事業所毎に整理し、今後の運営やサービスの向上に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	東住吉区GH連絡会や東住吉区の講習会などに参加し、分からない事があれば直接介護保険課に聞きに行ったりしています。	運営推進会議の議事録は1年分をまとめて行政の担当へ郵送し、具体的な問題点や分からないことは直接窓口に訪問したり電話で確認しています。行政の担当者の来訪時にも不明点の確認や情報交換をすることで事業所のことを認知してもらおうと共に行政との関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については社内研修にて学ぶ機会を設けており、施設の会議の際に全員で学ぶ様にしています。玄関の施錠は時間帯や利用者の安全が確保されている時間は解除するようにしています。	年1回法人での身体拘束に関する研修に職員の代表が参加し、事業所で伝達研修を実施したり資料を配布して内容を周知しています。利用者の安全や人員体制上フロア入口を施錠することもあります。外出希望の利用者へは出来るだけ寄り添って対応し散歩や外気浴をして気分転換を行い閉塞感がないように努めています。不適切な声かけが見られた時はその都度管理者が注意しています。	

アミライフ・東住吉(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も社内研修にて学び、全体会議にて職員が周知できるようにしています。利用者様からの話にも耳を傾け、虐待が見過ごされることがないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度やあんしんサポートを利用されている方がおられ、密に連携をとり利用者様の権利擁護守れるよう支援させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去時には書類を掲示しながら説明を行っており特に重要なヶ所については時間をかけて補足しています。後日不明な点がありましてもその都度説明をしご理解頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時や行事に参加された家族様に対してご意見ご要望を聞いたりしています。年に1回アンケートも実施しており匿名でのご意見も参考にさせて頂いています。	家族の意見は面会や行事の時に直接意見を聞いています。感謝の声が多い中、職員の挨拶が気になるとの意見をもらい早急に指導を行い改善に努め、また利用者より外出要望があり全員の外出の機会を増やす等、得られた意見は職員間で検討し速やかに改善に繋げ毎月送る便りで家族に伝えています。また、年1回行われるアンケートでは、内容を工夫する事で更なる意見をもらえるよう働きかけたいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開き、話し合いの場を設けています。事前に議題を募集し職員間で考え実践しています。再度検討や改善点を見つけ意見を反映させています。	月1回全体会議を職員が主体となり議題を集めて実施し、職員は意見を出し合っています。食事について職員間で検討して形状を試行錯誤したり、体制上夜勤の業務の進め方について話し合い見直しを図る他、服薬の記録方法を統一する等、職員の意見を運営に反映しています。年2回の定期的な面談や職員の様子を見て随時に個別に面接を行い意見を聞くように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何気ないコミュニケーションの中から職員の思いや目標などを聞き出したり悩んでいる職員に対してはヒアリングなどを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は現在は法人内の研修しか参加できていませんが、現場の介護技術やコミュニケーション術などを新人職員には補佐で付きトレーニングをしています。		

アミライフ・東住吉(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他事業所との見学会があり参加しています。また、他事業所の職員のみが集まり情報交換の場や交流を図る機会を設けています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談の際にご本人の言葉はもちろん仕草や様子から心の声を察し不安な事、困っている事などを一緒に共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	離れて暮らすことの不安、大切な家族がどのような生活を送ってほしいのかなどの要望を受け止め安心して頂ける様な関係性を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人様や家族様の状況を的確に見極め今どうすることが最善であるかを考えて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今できていることや機能の維持・向上に努め、刺激のある生活を送って頂けるようにお手伝いなどもして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にしかできないことや絆を大切にしながら家族様にも現状を密に報告し、一緒に考え悩みよりよい解決策を模索しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の古くからのご友人が面会に来られたり、家族が集まるときには参加できるように出来る限りの支援はさせて頂いています。教会の集会にも参加されている方もおられます。	家族や友人等の面会の際にはリビングや居室へ案内しお茶を出す等、ゆっくり過ごせるように環境を整えています。毎週知人の送迎により馴染みの教会に出掛ける利用者もいます。家族と外泊や外食、美容室、法事等の外出の際には服装や薬、車いす等の事前の準備をしたり、利用者の希望を聞き個別対応で馴染みの場所へ出かける等、これまでの関係が途切れないような支援を心掛けています。	

アミライフ・東住吉(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので全員が関係性良好だとは言えませんが、仲の良い利用者同士でお話をされたり職員が間に入って利用者様同士がコミュニケーションを計れるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族様にも年賀状や暑中見舞いなども送っています。入院された方に対しても可能な限りお見舞いに行くなど今までの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中からご本人の希望や嫌な事困っている事などを収集し、職員同士で話あったりしています。また、家族様から意向を聞いたり情報収集もしています。	入居前の面談時に利用者や家族から身体状況や生活歴、好きな事等を聞き取ったり、以前のケアマネジャーからも情報を得て思いや希望等の把握に繋がっています。入居後は日々支援する中での表情や言葉から利用者の思いや意向を汲み取り介護記録に残し、職員間で共有できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時にご本人や家族様、担当ケアマネ等に現在までの生活歴や趣味趣向などの情報を収集し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を詳細に生活記録に記入し、時間帯の把握や小さな変化も見逃さないようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族の意向主治医の意見を基に職員間で担当者会議を開きケアプランを作成しています。状態の変化によって再アセスメントやプランの変更も行いよりよい生活を送って頂くようにしています。	本人や家族の思い、アセスメントを基に作成された介護計画は、初回3か月で見直し、その後は利用者の状態に変化がなければ6か月毎に見直しています。見直し時にはモニタリングや評価を行い個々の計画を確認し再アセスメントを行った上でサービス担当者会議を開き、事前に聞いた本人や家族の希望、医師の意見を反映して現状に即した介護計画となるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者事に個別記録を作成し、情報の共有やその方のその日の様子や気づいたことを観察し記入するようにしています。		

アミライフ・東住吉(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊など希望があればご本人や家族様と相談し、実践できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実際の所地域資源や社会資源の活用があまりできていないのが現状です。ボランティアさんも高齢のため来られなくなり、現在検討中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に母体病院より往診で2週に1回医師と看護師がきて下さっています。入居前からの馴染みの診療所より往診もきて下さっています。	入居後に今までのかかりつけ医を継続することも可能であることを説明し、今までのかかりつけ医による往診を受けている方もいます。協力医の2週間に1回の往診があり、週に一度訪問看護師による健康チェックを受け職員と情報を共有し、緊急時には24時間連絡が取れ、そこから医師に繋ぎ必要な対応や指示を受けています。専門科等の受診は家族の協力を得ており、受診に関する情報は口頭で家族と交換しています。歯科や眼科の往診もあり、希望者が口腔ケアや治療を受けてます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護で診て頂いています。利用者様の状態の把握や医師との連携を計っています。また、職員の疑問や注意点なども指摘して下さいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、利用者様の状態の把握や家族様の思いなどを病院側や主治医とも相談し早期退院や情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人や家族様に密に説明し、重度化した場合の選択肢や事業所で出来る事などをご理解されるまで説明しています。利用者様の段階に応じて家族を交えて主治医と相談したり希望を確認しています。	入居時に指針を基に事業所の看取りの方針について説明しています。利用者の重度化が進んだ際に改めてガイドラインに基づき具体的な選択肢の例等も含め説明を行い、家族や職員、医師と話し合う機会を何度も持ち方針を決め支援しています。職員からも意見を聞き不安なく取り組めるように現在体制作りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡手順を見えるところに掲示し速やかに対応出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を行っています。避難経路や避難先などを把握し災害時に対応出来るようにしていますが、地域の協力体制はなかなか築けていません。	年2回それぞれ昼夜を想定して利用者も参加して通報から避難誘導、初期消火の訓練を実施し、昼想定の訓練の際は消防署立会の下で行いアドバイスをもらっています。運営推進会議で地域の方へ訓練実施の告知を行い、地域の消防訓練に職員が参加しています。定期的に業者に依頼し電気器具や消防設備の点検を受けたり、事業所では水や食料の備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、言葉遣いや上から目線の介護にならないように職員同士で注意し合っています。	法人で年1回利用者の人格の尊重やプライバシーに関する研修を受け、事業所で伝達研修を行い内容を全職員に周知しています。苗字での呼びかけを基本にやさしい言葉遣いで距離感を考慮しながら利用者一人ひとりに応じた声かけを行い、不適切な声かけが見られた時はその都度管理者が注意しています。排泄時の声かけも耳元で周囲や声の大きさに注意を払う等、羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見を聞き入れ、急がずに自己決定できるように選択肢を限定したり等工夫をし利用者様本意の支援を行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者様優先を心掛けています。強制ではなく本人の希望に添った支援を提供させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類をご自分で選んで頂いたり、外出の際はお化粧をされる方もいます。訪問理美容も来て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や味見など出来る方にはして頂き、食事の時間は職員も一緒に同じ物を同じ時間に食べてコミュニケーションや食事量の把握もしています。後片付けも手伝って頂いています。	業者から昼食と夕食の献立と食材やレシピが届き、業者には嗜好や暦の上での行事食等希望を伝え反映してもらい、食事作りをしています。利用者も朝食のパンや調味料等を買に出掛けたり、テーブルや食器を拭く等出来る事に携わってもらっています。職員は見守りながら一緒に食事をとり食事が楽しいものとなるように工夫しています。おやつやクリスマスケーキ等を作ったり、少人数で外食に出掛けることもあり楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や形態を職員が周知しています。1日の水分量のチェックやその日の健康状態に合わせた食事提供もしています。		

アミライフ・東住吉(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方に応じて見守りや介助を行っています。定期的に義歯の消毒も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の時間帯や間隔を把握し出来る限りトイレで排泄が行えるようにしています。利用者様の自尊心を傷つけないように失敗をなるべく防ぐようにしています。	トイレでの排泄を基本とし、利用者個々に排泄の記録を取りパターンを把握して声かけや案内を行い、失敗が少なくなる様な支援に努めています。紙パンツを使用していた方が布の下着に変わったことで皮膚の状態が改善した事例もあり、個々の排泄状況に合った支援の方法や排泄用品を職員間で検討し自立に向けた支援を実施しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや排便カウントを行っており、乳製品等で腸の働きを促したりホットパックなども使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回行っていますが、曜日や時間帯はこちらで決めているのが現状です。利用者様の気分や体調に応じて変更はしています。入浴を少しでも楽しんでいただけるように入浴剤を使用したり冬にはゆず風呂も行っています。	入浴は週2回、午後からの時間帯を基本に支援し、重度の方も2人介助で浴槽に入ってもらっています。入浴拒否が見られる場合でも声をかける職員やタイミングを変える等の工夫をして無理のない入浴に繋げています。ゆず湯を実施して季節を感じてもらったり、好みのシャンプーやリンスを持ち込む利用者もおり、会話を楽しみながらゆっくりと入浴してもらえるように支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠される環境を作るようにしています。昼夜逆転にならないように昼間はなるべく刺激のある生活を送って頂き、夜間不眠の方も不安な気持ちを取り除くように傾聴しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録に各利用者様のお薬情報を入れており、いつでも見ることが出来るようにしています。服薬事にはダブルチェックを必ず行い飲み込まれるまで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書を楽しまれる方や歌番組が好きの方、習字が得意な方には行事の際の掲示物を書いて頂いたりしています。好きな事楽しい事を日々の会話から探るようにしています。		

アミライフ・東住吉(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外に出て気分転換などしています。行事でお花見に出掛けたり外食に出掛けたりと企画もしています。家族様と外出され食事をされたり、入居前まで行っていた教会にも送迎の協力を経て行けるようになりました。	天候に応じて入浴の無い日に散歩や買い物に出かけています。季節に合わせて初詣や植物園、梅や桜の花見等の外出行事を実施し、家族へも参加を呼び掛けています。駐車場でお茶を飲んだり外気浴等、出来るだけ外に出る機会を多く持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご自分で出来る方には家族様にもご理解して頂き所持されている方もいます。近くのスーパーに買い物に行かれたりされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にもご協力して頂き、ご本人が電話をしたいと要望があれば繋いでいます。声を聞くことで安心される方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはくつろいで頂ける様にソファやチェアを用意しています。また、季節にあった飾り付けなども行っています。歩行の邪魔にならないようあまり物を置かないようにもしています。	共用空間は利用者の作品や習字を掲示したり、クリスマスツリーや鏡餅等の季節の飾り付けを行っています。年2回業者によりワックス掛けを行い、毎日清掃や換気を実施することで清潔保持に努め、リビングに温湿度計を設置して利用者の体感を考慮して室温調整に気を配っています。また好きな歌番組の録画を映す等、快適に過ごせる共有空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活の中で1日を過ごすご自分の居場所があり、落ち着かれる環境作りをしています。他の階の利用者様同士の交流もあり気のあった方同士会話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用しておられた馴染みの家具や写真などを用いて住み慣れたお部屋に近い状態で過ごして頂いています。仏壇なども持って来られています。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうように伝えテレビや筆筒、好きな本や趣味の編み物の道具、仏壇や家族の写真等を持って来てもらい家族が配置しています。希望により畳を敷き布団で休むことも可能です。毎日職員が掃除を実施し、濡れタオル等で加湿にも気を配り居心地の良い空間作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりが設置されており歩行訓練をされている方もおられます。トイレの場所が分からない方は判りやすく表示したり、車椅子で自走される方もいますのでスペースを確保するようにしています。		